

ミトコンドリアの電子伝達系と酸化的リン酸化(ATP合成)



磁気が人の細胞にどう働くのか、生化学の話になるので少し難しいのですが、その仕組みについてご説明致します。

みなさん私たちの体には細胞がいくつあるのかご存じでしょうか？人間の体には、60兆個もの細胞があり、そのすべての細胞の中にミトコンドリアが、2~30個あります。ミトコンドリアには、内膜、外膜、膜間スペース、マトリックスがあります。私たちが摂取した食べ物は酸化・分解されて、このミトコンドリア内のTCA回路を通り、最終的に二酸化炭素と水になるのですが、食べ物から取り出した水素を利用して、途中で電子を抜き取る作業を行っています。この電子を大量の電気としてミトコンドリア内の小さなモーターを回し、水素イオンを膜間スペースにためていきます。

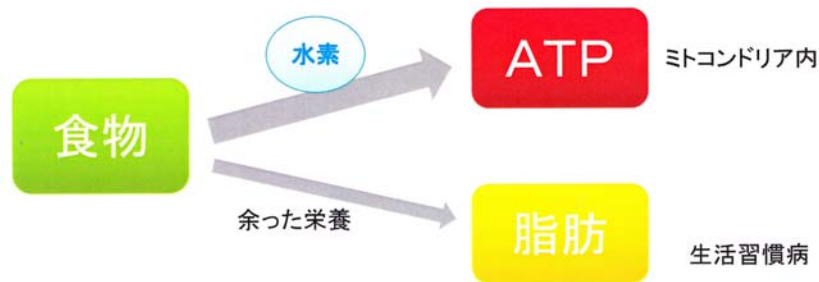
この水素イオンを特殊なタービンの中に通すことで3個のATPという化学エネルギーを作っています。これをミトコンドリアの電子伝達系、酸化的リン酸化と呼んでいます。磁気をあてることによって、細胞内の電子の流れをより良くし、電子伝達系の効率が高まります。その結果、ATPの合成が促進します。では、ATPとはいったい何なのでしょう？

💡 ATP(アデノシン三リン酸)とは

• 生体のエネルギー通貨(エネルギーの源)

白血球はATPを多く消費する。

白血球は体内に侵入した細菌・ウイルスなどの異物を排除



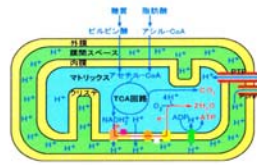
ATP とは、生体のエネルギーの通貨で、私たちの体のエネルギーの源となります。

先ほどご説明したように、食物を摂取すると細胞内のミトコンドリアで水素を引っ張り出して ATP に変換し、それを活動エネルギーとして使用しています。この代謝がうまくいかない場合や食べた分の余った栄養は、脂肪になって血管内や内臓脂肪に大量に蓄えられます。内臓脂肪は、様々な生活習慣病やがんなどに繋がりますが、ATP を多く作り出すことによって、生活習慣病の予防、がんの予防効果があるといえます。また、抗がん作用に関連しますが、血液中の白血球は ATP を多く消費しています。白血球の役割は外部から体内に侵入した細菌・ウイルスなど異物の排除をする役割を持ちますので、ATP が不足すると、白血球の働きも低下し、免疫力が落ちてしまいます。

自動車がガソリンで動くように、人間は ATP で生きています。しかし ATP は生きるための源でありながら、ためておくことは出来ないという特徴があります。食べた分だけ ATP が作られ、余った栄養はみな脂肪としてため込まれてしまいます。

ATP 自体では蓄積できないので、その時の体全体のスタミナの増大と深く関係します。磁気をあてることで、若さを保持出来やすい状況を作り、スタミナの減少を少なく出来るとも言えます。

つまり…



磁気を与えることによって、電子伝達系の
効率が高まり、**ATP合成が促進**する



**エネルギーの源となる！
免疫力アップ！**



つまり、磁気を与えることによって、電子伝達系の効率が高まり、ATP合成が促進されます。このATPが私たちの体のエネルギー源となり、免疫力アップにも繋がります。

まとめ



- 血行促進、リラックス、免疫力向上効果
- ATP(エネルギーの源)の合成促進

健康の維持・増進、病気の予防にはATPを
いかに効率よく増やしていくかが大切！

磁気を活用しましょう！！



まとめますと、磁気には血行促進、リラックス、免疫力向上などの効果が期待できます。また、健康の維持・増進、病気の予防にはATPをいかに効率よく増やしていくかが大切！ということを理解していただけましたでしょうか？

みなさん、ぜひ磁気を活用し、健康づくりに役立てていきましょう。